

能代北高跡地のワークショップニューズレター

これから、ここから。

From here and now

The former site of Noshirokita Senior High School and the future of Noshiro City

Vol.6

Newsletter

「北高跡地でイロイロしてみる」
実施実験プロジェクト、第3弾！

アーカーはここから
NPO法人アーツセンターあきた
#北高跡地活用



能代北高跡地活用の可能性を探る実証実験プロジェクト

能代北高跡地が2014年3月に秋田県から能代市に譲与されて9年余り。活用についてはこれまで複数の提案や意見があり、周辺の商店街を含めたつながりを考慮して検討することが必要とされてきました。秋田公立美術大学では2020年度に実施した基礎調査により、実験的な取り組みを続けることで中心市街地活性化に向けた機運を醸成する思考継続型プロジェクトを提案しました。2021年度のワークショップを踏まえ、2022年度には実証実験プロジェクトに移行し、「北高跡地で宿泊してみる」「北高跡地で展示してみる」を実施。2023年度は実証実験プロジェクト第3弾として、1日目は北高跡地を起点に歴史と文化をめぐるツアーを、2日目は北高跡地を会場にイロイロな試みを楽しみました。ニューズレター Vol.6では、1日目の様子を報告します。(企画・運営：秋田公立美術大学)

実証実験スケジュール

2023年度の実証実験プロジェクトは、2021年度のワークショップで提案されたアイデアをもとに整理した5つのプロジェクト〈北高跡地に宿泊する〉〈北高跡地でスタートアップ〉〈北高跡地で展示する〉〈北高跡地でつくる〉〈北高跡地で展望する〉のなかから、〈展示する〉〈つくる〉にクローズアップします。題して、「北高跡地でイロイロしてみる」です。プロジェクトの内容はニューズレターやNPO法人アーツセンターあきたのウェブサイト、能代市役所のウェブサイトからご覧いただけます。



北高跡地活用に関する能代市のウェブサイトはこちら

第3回 実証実験プロジェクト

「北高跡地でイロイロしてみる」1日目

「能代の歴史・文化訪問ツアー」

日時 | 2023年10月14日(土)10:00 ~ 16:30
場所 | 能代北高跡地(能代市追分町1-36)

能代の歴史と文化を楽しみます！

〈宿泊してみる〉〈展示してみる〉に続く第3弾の1日目は、北高跡地を出発して能代の歴史と文化をめぐるツアーを開催。A「能代のパワースポットコース」、B「檜山の殿様が見た景色コース」の2つから興味のあるコースを選んでバスでめぐります。

プロジェクト

- Project
- 技術的検討
Technical Study
- ワークショップ
Workshop

創造的な意見交換を行う「ワークショップ」と、ワークショップで出たアイデアを専門的な視点から検証する「技術的検討」を繰り返し、実施可能な「プロジェクト」を考えていきます。



2021年度以降の検討イメージ▶

[プログラム]

A 能代パワースポットコース

- 10:00 オープニング後、バスに乗車
- 10:25 日吉神社〜昼食〜日和山〜御旅所〜龍泉寺〜稲荷神社
- 15:00 能代市文化財資料収蔵庫
- 15:40 北高跡地(振り返り・アンケート)
- 16:30 解散

B 檜山の殿様が見た景色コース

- 10:00 オープニング後、バスに乗車
- 10:45 檜山城跡〜多宝院〜昼食〜霧山天神宮〜
檜山北限の茶畑〜檜山崇徳館ほか
- 15:00 能代市文化財資料収蔵庫
- 15:40 北高跡地(振り返り・アンケート)
- 16:30 解散



【第3回 実証実験プロジェクト】

北高跡地を起点に、能代の文化財を楽しむバスツアーへ！

2021年度に実施したワークショップでは、北高跡地を能代市の歴史や文化に親しむ拠点として活用する意見もありました。そのなかで短期的に取り組めるアイデアとして、

- 「将来の文化財」をテーマにした展示会などを開催
- 木工の家具や風など現在も制作されているものを中心として展示
- 使用可能で移動可能な展示空間を制作(木造コンテナ等)
- 能代の文化財をリスト化していく

などが挙げられました。能代市のウェブサイトでは文化財一覧を確認すると、国指定文化財は「檜山安東氏城館跡」「杉沢台遺跡」の2件、県指定文化財28件、市指定文化財67件、国登録文化財は「料亭金勇」「喜久水酒造地下貯蔵研究所」「能代市役所第一庁舎」「能代市議会議事堂」の4件、国記録選択文化財は「能代のナゴメハギ」の1件、県記録選択文化財は「能代のねぶ流し行事」の1件。県と市

「北高跡地でイロイロしてみる」募集チラシ

の指定文化財に関しては、その多くが個人所有です。そこで、まず能代市にどのような文化財があり、どのように保存されているのかを知るために、本プロジェクトでは各地にある文化財を訪問するツアーを企画しました。

8月には秋田公立美術大学の学生を中心としたプレワークショップを実施し、「能代パワースポットコース」と「檜山の殿様が見た景色コース」を設定しました。プレワークショップを含め北高跡地から始まるツアーの案内人は、「のしろ檜山周辺歴史ガイドの会」の皆さんです。1998年に設立された同会では、檜山を中心に能代市全域で郷土史や歴史学習会、小学校のふるさと学習、児童生徒の自由研究、ウォーキングなどの説明ガイドや案内役などを務めています。

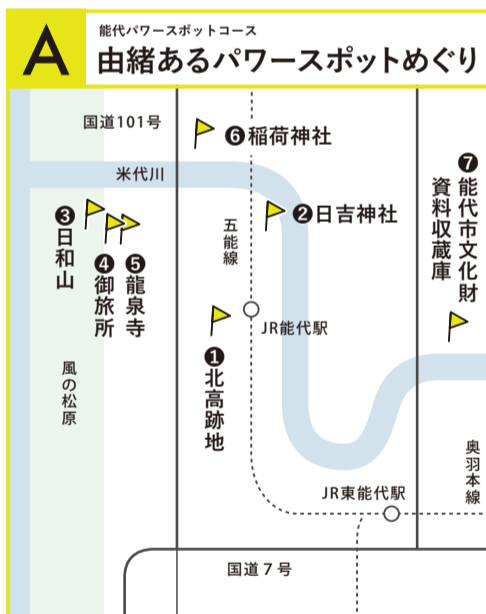
10月14日。北高跡地を出迎えた小杉栄次郎教授は「能代の歴史や文化財を知ることで、展示する時にはどういふものをどう展示すればいいかを考えるきっかけにしてほしい」と挨拶。参加者は「のしろ檜山周辺歴史ガイドの会」の案内で「能代パワースポットコース」「檜山の殿様が見た景色コース」に分かれ、バスに乗って出発です。



プロジェクトを率いる小杉栄次郎教授



のしろ檜山周辺歴史ガイドの会会長の柴田テツ子さん



- ①北高跡地→②日吉神社(宮司のお話・山車見学)→昼食休憩→③日和山(五輪塔・方角石)→④御旅所(一押しパワースポット)→⑤龍泉寺(住職のお話・御沢仏・円空仏)→⑥稲荷神社(船給馬)→⑦能代市文化財資料収蔵庫

Aコースが最初に向かったのは日吉神社です。朱塗りの三角形の屋根が特徴的な山王鳥居をくぐって境内へ。平賀優子宮司に迎えられ、能代鎮守の日吉神社の成り立ちや大火の話に耳を傾けました。天文2年(1533)海に現れたご霊光を漁師が引き上げ、御神体として奉安し、建立したのが日吉神社。明治26年(1893)に奉納された坂本慶画「御神幸祭絵図」(能代市指定文化財)には、その由緒や社殿建立、川筋の変化や飛砂によって遷座したこと、豪華絢爛な御神幸祭行列の様子などが極彩色で描かれています(中の申祭で公開)。大火に遭いながらも強く枝を張るトチノキや江戸時代に奉納された狛犬などが佇む境内には、5つの扉を設けた蔵が立っていました。普段は閉じられている蔵に入ると、御神幸祭の5つの丁山(守護神を祀った山車)が姿を現します。大町組(三番叟)、上町組(鍾馗)、萬町組(狸狸)、清助町組(恵比寿)、後町組(大黒天)の丁山は御神幸祭宵宮の朝に蔵出しされ、各町内を廻り、御神幸祭当日、男衆が担ぐ御輿とともに御旅所へと向かいます。平賀宮司が話す町のこと、しまたりのことなどに耳を傾けながら、重厚な本御輿と五丁山の巡幸に思いを馳せました。裏面につづく



平賀優子宮司



由緒あるトチノキや狛犬が出迎える境内



五丁山が鎮座する蔵内を見学



日吉神社御旅所

Aコース.つづき 能代を見晴らす日和山で五輪塔と方角石(いずれも市指定文化財)、パワースポットとして名高い御旅所をめぐった後は、日和山から続く丘陵に位置する湯殿山龍泉寺に向かいます。金銅造の「薬師如来立像」、仏師・円空の初期の作とされる木造の「十一面観音菩薩立像」、不思議な逸話をもつ「二の舞附面」「二の舞腫面」(いずれも県重要文化財)など多数の寺宝がある龍泉寺にて木村祥泉住職から歴史と寺宝の話をうかがい、「合掌」についての法話を聴きました。奥の間に異彩を放っているのは「御沢仏」です。かつて湯殿山詣には沢を駆け上がる「御沢駆け」があり、その行程で見ることのできる滝や山、岩などの自然物を神仏としてかたどっていました。参拝者は「御沢仏」を拝することで山岳修行と同じ功德を積むことができるといわれ、龍泉寺には「御前五身仏」「胎内権現」「日月燈明仏」などの神秘的な仏像彫刻がおよそ五十体安置されています。その後、稲荷神社へと向かいます。北前船の寄港地でもあった能代では、航海の安全を祈願したり無事に航海を終えたことに感謝して寺に船絵馬を奉納していました。稲荷神社に掲げられた数多くの船絵馬や大漁祈願の絵馬には、能代のまちと人の歴史と暮らし、祈りが込められていました。



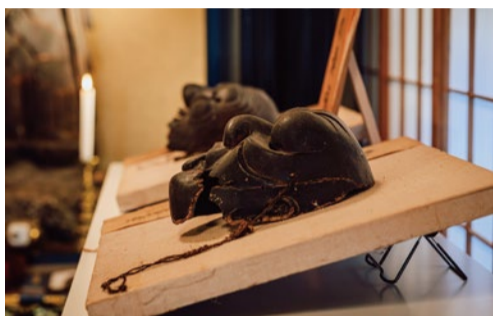
花崗岩を使い建立された日和山五輪塔 方角石



湯殿山龍泉寺



木村祥泉住職 十一面観音菩薩立像(円空作)



伝説の二の舞腫面



稲荷神社にて



稲荷神社には数々の船絵馬が奉納されている

Bコース.つづき 檜山地区には数々の史跡があり、江戸時代の絵図に見える多賀谷居館跡を中心とした地形は今も残っています。多賀谷氏の菩提寺である「多宝院」(本堂・山門・鐘楼が県指定文化財)は8室構成の間取りや前面の土間が曹洞宗本堂の特徴を伝えています。風格ある山門や鐘楼を眺め、その存在感に歴史の重みを感じました。多賀谷氏が氏神として庇護してきた霧山天神宮の御神体は、菅原道真公が自ら描いた「鏡天神」です。かつて主が掛け軸を開こうとしたところ居館から出火したが実際は何事もなく、掛け軸を巻き戻すと紅葉が落ちたとの伝説から「木の葉天神」とも呼ばれます。神主である大高翔さんが語る歴史に耳を傾け、収蔵庫では「霧山天神連歌懐紙」(県指定文化財)と共に文台や文箱、香炉など「連歌びらき御規式道具」も拝見。懐紙にしたためられた躍動感のある筆跡は連歌が盛んに行われていた頃を偲ばせます。大高さんは江戸時代から武士の副業として生産されてきた檜山茶の栽培・販売にも携っています。宇治茶の希少な在来種であり280年もの間変わらない手摘みと手揉みで生産される檜山茶の葉は、風土を写しとるような艶のある緑。お茶の花に見とれながら、檜山の土地の豊かさを感じました。



春は枝垂れ桜が美しい多宝院



本堂



神主の大高翔さん



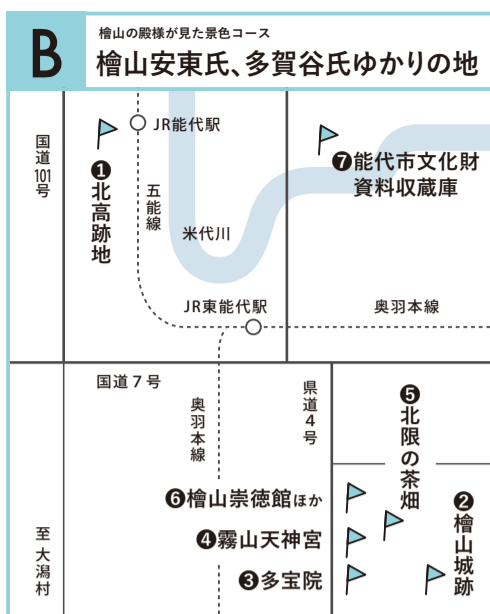
霧山天神連歌懐紙



北限の茶畑



桃山様式を残す山門が見事な浄明寺



①北高跡地→②檜山城跡(山城を歩こう)→③多宝院→昼食休憩→④霧山天神宮(宮司のお話・見学)→⑤北限の茶畑(茶畑を歩こう)→⑥檜山崇徳館ほか(檜山焼き・檜山城赤色立体地図など)→⑦能代市文化財資料収蔵庫

Bコースが向かうのは檜山地域です。戦国大名・檜山安東氏の本拠地であり、中世から江戸時代の終わりまで能代山本地域の中心地として栄えた地。国指定史跡「檜山安東氏城館跡(檜山城跡、大館跡、茶臼館跡、国清寺跡)」をはじめ、江戸時代に檜山を治めた多賀谷氏ゆかりの史跡や寺社、檜山舞、羽立ささらなどの伝統芸能、檜山納豆や檜山茶などの特産品がこの地の文化を形成しています。

江戸時代に整備された羽州街道の面影を残しているのが、「檜山追分旧羽州街道松並木」(県指定史跡)や一里塚です。樹齢200年と推定される13本の松の木を眺めた後、檜山城跡へ。急な斜面を上り、山城を歩きます。馬蹄形の尾根全体を天然の要害とした東西1,500m、南北900mの山城は霧山城、堀ノ内城とも呼ばれ、曲輪、腰曲輪、堀切などの遺構があります。現在、その構造や性格の把握を目的に、城跡の中心である古城地区の発掘調査が進行中です。参加者は三の丸から二の丸、本丸へ。急峻な谷や斜面、険しい道は、籠城に耐え忍んで反撃した歴史を彷彿とさせます。

左下につづく



現在発掘調査中の檜山城跡を歩く



お隅檜跡から見渡す



檜山追分旧羽州街道松並木を望む

旧朴瀬小学校の校舎を改修し、文化財保護へ

AコースBコースとも、最終訪問地は「能代市文化財資料収蔵庫」です。2019年に閉校した旧朴瀬(ほのきせ)小学校の校舎を活用して整備した施設で、2023年に完成したばかり。収蔵作業中のため見学できず、能代市総合政策課の篠内克弘さんの説明で外観だけ見学しました。能代市の指定文化財の多くは個人や寺社が所有しており、寄贈を受けた資料や文化財はこれまで能代図書館等で保管されてきました。個人所有の文化財は高齢化や代替わりで散逸し、また、寄贈されても、資料はこれまで

温湿度管理ができない建物で保管されている状況だったとのこと。そのため文化財を1カ所に集約し、適切に保存管理する施設として旧朴瀬小を大規模改修して整備。教室や職員室、体育館などは、温湿度が調整できる特別収蔵庫、計測や撮影を行う調査整理作業室、書庫などとして活用されることになりました。現在は文化財等の運搬・整理と共にデータベース化が進行中。能代市に保存管理の拠点が整備されたことで、文化財に関する取り組みは新たな段階を迎えています。



旧朴瀬小学校校舎を改修した能代市文化財資料収蔵庫



教室や職員室、体育館等が収蔵庫に

次回は、「北高跡地でイロイロしてみる」後編!

ニューズレター Vol.7では、能代の産業・農産物を楽しんだ「北高跡地でイロイロしてみる」2日目の様子を報告します。北高跡地における利活用の可能性を探るワークショップのこと、実証実験のこと、このニューズレターのことなどはNPO法人アーツセンターあきたまでお問い合わせください。

お問い合わせ先:
NPO法人アーツセンターあきた ☎ 018-888-8137

プロジェクトメンバー
小杉栄次郎(秋田公立美術大学景観デザイン専攻教授)
井上宗則(秋田公立美術大学景観デザイン専攻准教授)
石渡雄士(秋田公立美術大学景観デザイン専攻助教)
田村剛(NPO法人アーツセンターあきた)
高橋ともみ(NPO法人アーツセンターあきた)

能代北高跡地のワークショップ
ニューズレター「これから、ここから。」 Vol.6
2024年1月発行
発行 公立大学法人 秋田公立美術大学
〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町12-3
TEL.018-888-8100

※能代北高跡地利活用可能性検討業務の一部として作成しています。
デザイン: 越後谷洋徳 写真: 伊藤靖史、鄭伽耶
編集: 高橋ともみ 制作: NPO法人アーツセンターあきた